

積雪期登山事故防止の取り組みについて、緊急アピール!

当たり前のことだが、山で死んではならない。しかし、2月に入り戸隠連峰西岳で滑落事故発生し、現在も行方不明。暖冬で積雪が少なくても、今年の春山は要注意だ!

遭難対策部

今年1月から積雪期登山の事故が多発している中、会員の行方不明事故が発生した。1月上旬八ヶ岳では、氷瀑から岩稜帯へのトラバースで滑落事故が発生し、ビバークした3名がヘリ搬出された。その他、氷瀑や山スキー・積雪期登山の事故が各4件発生している。会員外でも、2月に入り北海道で雪崩による事故が相次ぎ2名が死亡。大山でも雪崩事故が発生し男性2人が行方不明となっている。暖冬の影響で降雪が少なかった各地の山やスキー場は、3月に入り大雪となり長野県の小谷村の風吹岳で10人が巻き込まれる雪崩が発生した。3月の登山は、不安定な雪質の影響で足元を取られる転倒事故や雪崩による事故も予想される。是非、以下の事例を参考に安全登山をお願いしたい。

それぞれの遭難事例では下記の原因がある

- ・積雪期登山の体力と判断力不足
- ・行動予定と行動時間の差
- ・悪天予報を認識しての行動が欠如
- ・天候悪化による道迷い
- ・ピバーク用装備の不携帯
- ・積雪期登山の技術不足
- ・日頃からの体調管理ができていない

積雪期登山については

- ・装備の確認を怠らない（パーティ内ではダブルチェック）。
- ・ルート状況を事前に想定する。
- ・天候の判断を慎重に行う。
- ・各自の体力や技術を的確に把握する。
- ・特に今年は短時間の増える積雪の状況があることを考える。
- ・天候悪化の低体温症が要因とする事故については、無理な行動を控え引き返す事も計画に入れ、時間に余裕のある行動を心掛けてください。